

令和6年度 江戸川区立松江第一中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○思いやりをもち、協力し合い豊かな心を培う ○進んで学習に励み、がんばりぬく力を身につけさせる ○正しく、厳しく、美しく、生涯の基を築く	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○生徒が夢や目標に向かって邁進する 保護者や地域から信頼され頼られる 教職員が生徒のために力を発揮できる ○思いやりをもち、互いに協力し合い、豊かな人間関係を築ける 主体的に学び、事故の将来をしっかりと考えられる 困難に負けない、強く健康な心と身体を持った生徒 ○生徒とともに喜びを感じることのできる 使命感をもち、信頼される言動がとれる 日々の実践と主体的に研修を行い、自らを向上させる
前年度までの本校の現状	成果 授業アンケートの結果、多くの授業で「授業がよくわかる」85%以上に達成した。授業規律も維持できている。学校図書館の活用により探究的な学習活動が実施できた。ERの環境整備を充実させICT機器を活用したことで、不登校生徒に登校を促すことができた。	課題 教職員が「運動意欲の向上」に向けて研修などを重ねているが、体力調査のいくつかの種目では、都の水準に達していたなかった。文科省の定義による不登校生徒数については依然として多い数となっている。学力についてはおおむね都平均であるが教科によっては下回るものもある。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己(学校)評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己(学校)評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	授業改善の推進 学友の基盤となる基礎基本の確実な習得	<ul style="list-style-type: none"> 「誰一人取り残さないための学力向上に向けたアクションプラン」を計画的に進める。 生徒用のデジタル教科書を配備し、授業の予習や復習にも活用する。個別の最適な学びへの一人一台端末の活用を促す。 放課後補習教室を希望する生徒が、可能な限り参加できるように調整をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート回答「授業がよくわかる」「授業がわかる」の合計が90% 各学年で授業がある日の9割で授業配信 	B		B	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの結果、多くの授業で「授業がよくわかる」が90%を達成した。授業規律の徹底もできた。 各学年1クラスで定期的に授業配信ができた。何らかの事情で教室に登校することができない生徒が視聴することで少しでも授業内の雰囲気を感じ取ってほしいと考える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 近隣小学校では、都の正答率を上回っている。これに倣って松江第一中学校の更なる学力向上につなげてほしい。 校内は落ち着いており、良い学校になっていると思います。 					
	家庭学習の習慣化 学校による組織的な取組を実践	<ul style="list-style-type: none"> 区教委の取り組みである「江戸川っ子studyweek!」を確実に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「江戸川っ子studyweek!」で電子ドリル等に取り組む生徒数を半数以上にする。 	A		A	<ul style="list-style-type: none"> 「江戸川っ子studyweek!」利用強化期間を定期考査期間中に設定した。約半数の生徒が取り組んでいた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上にとってよい取り組みであると考え。強化週間の設定もtetoruで周知されているのも良かった。 					
	読書科の更なる充実 学校図書館を活用し探究活動を実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の整備を区立図書館司書と計画的に進める。 図書館司書による「図書館の使い方授業」を実施する。 PTAの協力を得ることで、学校図書館の開設時間を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で成果物を1つ以上作成する。 図書紹介 年間1時間以上確保 朝読書を21時間、14回の1単位時間 合計35時間分の読書科の授業を実施 都学力調査(国語)都平均以上にする。 	B		B	<ul style="list-style-type: none"> 授業における学校図書館の利用回数については、まだ改善が必要である。 司書教諭と松江図書館の支援員が協力して蔵書の管理・更新を計画的に進めた。 ブックトークや図書委員を中心とした書籍の紹介を朝学活で行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 月に2~3回水曜日に、PTAにより図書館開放を実施している。ただ利用回数が少なく生徒たちの読書向上につながっているのかは検証が必要である。生徒への啓発活動も継続してほしい。 					
体力の向上	基礎体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上を促すために、体育の授業前に補助運動を必ず実施する。 全国や東京都の体力調査結果を分析し、生徒にとって伸ばすべき能力について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力調査 都の平均以上 	C		C	<ul style="list-style-type: none"> 体力調査において男女とも都の平均を下回っている。生徒間で運動の得意・不得意が分かれてしまっている。保健体育の授業開始時に補助運動を強化する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 地域・保護者の立場からみても体力低下について危機感を感じる。運動部活動では良い成績を残しているため、それが体力向上の結果につながるよう期待したい。 					
教育の推進 共生社会の実現に向けた	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に向けて障がい者やLGBTQへの理解、多様性を理解する教育を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 障がいを体験する授業を各学年で実施 1学年 アイマスク体験(6月) 2学年 手話体験(11月) 3学年 点字体験(3月) 多様性を理解する講演会(11月) 	A		A	<ul style="list-style-type: none"> 障がいを体験する授業として、5月にアイマスク体験を実施した。2学期以降も予定されている体験や講演会を確実に実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 日本においても障がい者やLGBTQへの理解が進んできていると感じます。子供たちが必要な知識や態度を学んでほしいを思います。 					
	エンカレッジルームの活用促進	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度までの「不登校児童・生徒支援調査研究事業」の対象校として、エンカレッジルームの設備や運用方法をさらに充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校理解を深める教員への研修を年に1回以上実施 	A		A	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中に不登校に関わる自主研修を合計3回実施し、理解を深めることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 時間差で登校する生徒がいると聞いています。給食や行事に少しでも参加させてほしい。校内やクラスでも理解が進んでいると感じます。 					

	副籍交流及び共同学習	区内にある都立鹿本学園との副籍交流を通して、生徒の障害者理解を深める。	特別支援コーディネーターが1学期に1回、副籍生徒の情報共有を行う。	B	B	・お互いの学校だよりを交換するなど定期的な情報交換及び情報共有を実施している。	B	・副籍交流は子供たちにとって鹿本学園の様子を知ることができの良い機会だと思います。				
不登校・いじめ対応の充実	不登校対策の実施・充実	・今年度は不登校を発生させない「発達支持的生徒理解」を推進する。	「発達支持的生徒理解」に関する校内研修を年1回以上実施する。	A	A	・4月当初に職員研修を実施しそれぞれの職員が不登校を生まないために何が必要なのかを考える機会となった。	A	・不登校を発生させない取り組みは素晴らしいと考える。今後も発展充実を期待したい。				
	教育相談の強化	・ヤングケアラーの早期発見に必要な対応をする。実際に支援が必要と思われる事案にはSCやSSWなどの関係機関と連携し多方面から生徒への働きかけを行う。	・1年生と担任の面談を1回設定し、ヤングケアラーについての聞き取りを行う。必要と判断すれば2回目の面談も実施する。	B	B	・1学期中に1年生と担任との面談を実施した。ヤングケアラーについて啓蒙活動も実施した。	B	・学校全体が落ち着いていることで、安心して登校させることができる学校だと思います。				
	hyper-QUの活用	・生徒やクラスの状態についての理解を深めるためhyper-QUを実施し、その結果を分析することで生徒にとってより良い学校生活への改善に活用する。	・hyper-QUを年に2回実施する。	A	A	・hyper-QUを1学期に実施した。結果を分析、共有することで、クラス運営上の問題点に早期に発見し対応するようにする。	A	・クラスの分析や対策をしていたら聞いておくことを聞き、とても安心しております。				
学校（園）の地域社会に開かれた実現	学校ホームページの充実	・本校の教育課程関連資料やいじめ基本方針をHPに掲示し、地域・社会に開かれた学校の実現を目指す。また生徒の日常の教育活動を可能な限りアップすることで、保護者や地域の皆様に本校の教育活動への理解を深めていく。	・行事や学校での出来事を紹介するために週1回以上は学校HPの更新を行う。	A	A	・経営支援員の協力により、日々の教育活動の紹介をアップするなど、学校HPの更新は頻繁に実施できている。今後もさらに充実していく。	A	・給食のメニューや行事の様子が更新されています。とてもわかりやすいホームページだと思います。				
	学校公開の実施充実	・特に地域の自治会や町会の方々にも学校公開を参観していただく。	毎月1回配布している学校だよりにより学校公開の内容を含めて配布する。	A	A	・毎月学校だよりを配布することが出来ている。その中で学校公開の連絡も出来ている。	A	・普段なかなか学校の様子が分からないが、公開期間で観ることが出来て良いと思う。				
	地域行事の実施・継承	・参加人数やその内容について検討しながら、地域への行事へ積極的に参加する。	・4月下旬と11月下旬に蓮植え。蓮堀りを計画する。	A	A	・4月29日に蓮植への会を実施した。生徒会役員や部活動の部員も参加したり、吹奏楽部の記念演奏があり盛況であった。	A	・昨年以上の参加があり良かった。蓮の成長も順調である。11月の開催も期待している。				
教育の特色ある展開	学校における働き方改革プラン	生徒の出欠席の連絡を「Tetoru」を用いることで業務負担を軽減する。朝の伝達事項をC4thの連絡掲示板等を使用することで朝会の時間を短縮させる。	朝全体打合せを3分以内に終わらせる。	B	B	・朝全体打ち合わせは、特別な連絡がある場合を除いて、3分以内に終了している。また連絡掲示板の活用も進んでいる。	B	・朝の欠席連絡がtetoruでできることで、保護者の負担が減って良いことだと思う。				